

## 『翻譯老乞大』における「匹」「疋」字の分布

竹越 孝

### 1.

崔世珍(1467-1543)の手になる『老乞大』の諺解本、いわゆる『翻譯老乞大』は、『翻譯朴通事』とともに、『四聲通解』(1517年)以前には成立していたとされる。第二次大戦後に発見されたこの書は、活字本に基づいて摸刻された木版本であり(同時期に発見された『翻譯朴通事』上巻は活字本)、現在の所蔵は上巻が白淳在氏、下巻が趙炳舜氏である。上下二巻の影印は亞細亞文化社(1980)として刊行されている。

本書が中期朝鮮語及び近世漢字音の研究における第一級の資料であることは言うまでもないが、本稿ではその漢字部分に注目し、「匹」と「疋」という二字の分布について紹介したい。

### 2.

「匹」と「疋」に関しては、一般に「匹」が正体、「疋」が俗体とされている。『廣韻』では入声質韻に「匹：遇也。配也。合也。二也。説文云：四丈也、从八匚、八揲一四〔匹〕。俗作疋。譬吉切。」とあり、『集韻』では同じく入声質韻に「匹：僻吉切。説文：四丈也、从八匚、八揲一匹。一曰偶也。俗作疋、非是。」とある。また、『四聲通解』では眞軫震質韻の pi (入声) に「匹：帛長四丈爲一匹。又記也。合也。耦也。又馬一。又一夫。」とあり、その直後に「疋：同。又古雅字。」とある。遠藤光暁(1990)によれば、『翻譯老乞大』における音注は両字とも右側音が pi、左側音が pi' (声点はともに一点) である。

### 3.

『老乞大』諸本において、「匹」と「疋」は主に馬あるいは布製品を数える場合に用いられる。『翻譯老乞大』では「匹」字が12例、「疋」字が17例使用されているが、その分布には顕著な偏りがある。まず、「匹」字の12例につき、この字が示すカテゴリーと品詞(布・馬及び量詞・名詞の別)、『翻譯老乞大』における用例、及び漢字部分に関して本書とほぼ同一の内容を持つ「今本／新本」系の三テキスト、即ち漢字本『老乞大』(刊年不明、以下漢字本)、『老乞大諺解』(1670年、以下諺解)、平安監營重刊本『老乞大諺解』(1745年、以下平安諺解)、そして1998年発見の『旧本老乞大』(14世紀、以下旧本)における相当箇所の記事をまとめると以下のようなになる。

表一：『翻譯老乞大』における「匹」字

No.	類	翻譯老乞大	漢字本	諺解	平安諺解	旧本
1	布量	小絹一匹三錢 (上 13b4)	疋 (5a8)	匹 (上 12a9)	匹 (上 12a9)	疋 (4b2)
2	布量	綾子每匹二兩家 (上 13b6)	疋 (5a9)	匹 (上 12b1)	匹 (上 12b1)	疋 (4b3)
3	布量	絹子每匹 (上 13b9)	疋 (5a10)	匹 (上 12b3)	匹 (上 12b3)	疋 (4b4)
4	布量	綾子每匹染錢 (上 14a1)	疋 (5a10)	匹 (上 12b5)	匹 (上 12b5)	疋 (4b4)
5	布量	絹子一匹 (上 14a6)	疋 (5b2)	匹 (上 12b9)	匹 (上 12b9)	疋 (4b5)
6	布量	賣細麻布兩匹 (上 14a7)	疋 (5b2)	匹 (上 12b10)	匹 (上 12b10)	疋 (4b6)
7	布量	綾子一匹 (上 14a8)	疋 (5b3)	匹 (上 13a2)	匹 (上 13a2)	疋 (4b6)
8	布量	鴉青的賣布六匹 (上 14a9)	疋 (5b3)	匹 (上 13a3)	匹 (上 13a3)	疋 (4b7)
9	布量	小紅的賣布五匹 (上 14b2)	疋 (5b4)	匹 (上 13a5)	匹 (上 13a5)	疋 (4b7)
10	布量	賣布一匹 (上 14b4)	疋 (5b5)	匹 (上 13a7)	匹 (上 13a7)	疋 (4b8)
11	馬量	趕着幾匹馬來也 (上 67a3)	疋 (23a6)	匹 (上 60b2)	匹 (上 60b2)	箇 (21a10)
12	布量	低的三十匹 (下 63b2)	匹 (45a6)	匹 (下 57a7)	匹 (下 57a6)	匹 (37a6)

上表のように、『翻譯老乞大』における「匹」字は1例を除きすべて上巻で用いられている。うち布に対する量詞として用いられたものは11例、馬に対する量詞として用いられたものは1例である。

#### 4.

同様に、『翻譯老乞大』における「疋」字17例の使用状況を、他の『老乞大』諸本と対照した上でまとめてみると以下のようなになる。なお、外字は { } 内に構成要素を記し、相当する箇所が存在しない場合は「一」で示した。

表二：『翻譯老乞大』における「疋」字

No.	類	翻譯老乞大	漢字本	諺解	平安諺解	旧本
13	馬量	我將的幾疋馬來 (下 2a6)	疋 (25a1)	疋 (下 2a4)	疋 (下 2a4)	箇 (20b5)
14	馬量	我將着幾疋馬來 (下 5a1)	疋 (25b9)	匹 (下 4b3)	匹 (下 4b3)	箇 (21a10)
15	馬量	他也有幾疋馬 (下 6a2)	疋 (26a7)	匹 (下 5b2)	匹 (下 5b2)	箇 (21b6)
16	馬名	路上喫的馬疋草料并下 處 (下 6a9)	疋 (26a9)	匹 (下 5b9)	匹 (下 5b9)	匹 (21b8)
17	馬量	這五疋好馬 (下 12a2)	疋 (28a7)	匹 (下 10b10)	匹 (下 10b10)	箇 (23a9)
18	馬量	每一疋八兩銀子 (下 12a3)	疋 (28a7)	匹 (下 11a1)	匹 (下 10b10)	箇 (23a9)
19	馬量	赤色驕馬一疋年五歲 (下 16a7)	疋 (29b6)	匹 (下 14b7)	匹 (下 14b7)	疋 (24b3)
20	布名	你這人蓼布疋 (下 20b8)	疋 (31a5)	匹 (下 18b10)	匹 (下 18b10)	疋 (25b8)
21	布名	這段疋綾絹紗羅等項 (下 26b3)	疋 (33a2)	匹 (下 24a2)	匹 (下 24a2)	疋 (26b9)
22	馬量	騎的馬三十兩一疋好 {馬竄}行馬 (下 49b6)	疋 (40b5)	匹 (下 44b10)	匹 (下 44b9)	一 (33a6)
23	馬名	人口頭疋家財金銀器皿 (下 55a6)	疋 (42b1)	匹 (下 49b9)	匹 (下 49b8)	疋 (34b9)
24	布量	上等毛施布一百疋 (下 63a8)	疋 (45a6)	匹 (下 57a5)	匹 (下 57a4)	疋 (37a6)
25	布量	每疋一兩 (下 63a9)	疋 (45a6)	匹 (下 57a6)	匹 (下 57a5)	疋 (37a6)
26	布量	每疋六錢 (下 63b2)	疋 (45a6)	匹 (下 57a8)	匹 (下 57a6)	疋 (37a7)
27	布量	再買些麤木絛一百疋 (下 69b3)	疋 (47a8)	匹 (下 62b7)	匹 (下 62b6)	匹 (39a2)
28	布量	織金和素段子一百疋 (下 69b4)	四 [匹] (47a9)	匹 (下 62b8)	匹 (下 62b7)	匹 (39a2)
29	布量	花樣段子一百疋 (下 69b5)	四 [匹] (47a9)	匹 (下 62b9)	匹 (下 62b8)	匹 (39a2)

上表のように、『翻譯老乞大』において「疋」の字が用いられるのは下巻に集中している。うち馬に対する量詞として用いられたものが7例、馬を示す名詞として用いられたものが2例、布に対する量詞として用いられたものが6例、布を示す名詞として用いられたものが2例である。

5.

『翻譯老乞大』において、同じ意味用法を持つ漢字の分布が前半部分と後半部分で相違しているのは、他の「今本／新本」系諸本における状況と異なる。漢字本では3例を除いて「疋」、諺解及び平安諺解では1例を除いて「匹」であり、用字に関しては概ね首尾一貫している。

日本の状況はやや複雑である。馬に対する一般的な量詞は「箇」であり、「疋」を用いている例(19)は売買契約書の中での表現である。馬を示す名詞としては「馬匹」「頭疋」が用いられるほか、上表以外に「頭匹」(32b9、他の諸本は「頭口」に作る)がある。また、布に対する量詞としては「疋」が一般的であるが「匹」も4例見られ、布を示す名詞としては「布疋」「段疋」がある。

以上の『老乞大』諸本における「匹」「疋」字の総数と上下巻の分布をまとめると次のようになる。

表三：『老乞大』諸本における「匹」「疋」字

		翻譯老乞大		漢字本		諺解		平安諺解		旧本	
		匹	疋	匹	疋	匹	疋	匹	疋	匹	疋
馬	量	上0	上0	0	8	上1	上0	上1	上0	0	1
		下1	下7			下6	下1	下6	下1		
	名	上0	上0	0	2	上0	上0	上0	上0	2	1
		下0	下2			下2	下0	下2	下0		
布	量	上11	上0	3	14	上11	上0	上11	上0	4	13
		下0	下6			下6	下0	下6	下0		
	名	上0	上0	0	2	上0	上0	上0	上0	0	2
		下0	下2			下2	下0	下2	下0		
合計		上11	上0	3	26	上12	上0	上12	上0	6	17
		下1	下17			下16	下1	下16	下1		

以上からごく大まかに「匹」「疋」二字の使用傾向を捉えるならば、旧本では馬が「箇」、布が「疋」、漢字本では馬・布とも「疋」、諺解及び平安諺解では馬・布とも「匹」となる。馬・布ともに「匹」と「疋」の用例数が拮抗し、かつそ

の分布が上巻と下巻で截然と分かれているのは『翻譯老乞大』のみである。

6.

『翻譯老乞大』において「匹」「疋」の二字がこのような偏った分布をなすに至った原因については不明と言うしかないが、現段階で考えられるのは上巻と下巻では底本、時期、地点、刻工といった、刊行の経緯や状況が異なるということである。考えてみれば、上巻と下巻で所蔵者が異なるということは、上巻と下巻が別々に発見されたということであり、本稿にとって示唆的である。寡聞にして、上と同様の偏りが存在することを指摘した論考を知らないが、今後漢字部分の字体・内容や音注・諺解の面での事例が蓄積されていけば、『翻譯老乞大』の成立過程を解明するための糸口が見つかるかも知れない。

#### < 参考文献 >

- 安秉禧 1996 「『老乞大』 oa gy 諺解書 yi 異本」, 『人文論叢』 35 : 1-20, seoul 大學校人文學研究所。
- 亞細亞文化社 1980 『原本老乞大諺解 (全)』, 亞細亞文化社。
- 遠藤光暁 1990 『《翻譯老乞大・朴通事》漢字注音索引』, 中國語學研究『開篇』 単刊 3, 好文出版。
- 金文京等 2002 『老乞大—朝鮮中世の中國語會話讀本—』, 東洋文庫 699, 平凡社。
- 京城帝國大學 1944 『老乞大諺解』, 奎章閣叢書 9, 京城帝國大學法文學部。
- 河野六郎 1979 「朝鮮語ノ羅馬字轉寫案」, 『河野六郎著作集』 1, 平凡社, 96-97。
- 弘文閣 1984 『重刊老乞大諺解』, 弘文閣。
- 鄭光等 2000 『元代漢語本《老乞大》』, 慶北大學校出版部。